

ファイナルレポート

第 10 回 国際電子部品・アセンブリ・マテリアル専門見本市・会議

第 10 回 国際電子部品製造技術専門見本市・会議

Bangalore International Exhibition Center – BIEC (インド・バンガロール)

2009 年 9 月 8 日～11 日

Summary

- 10 周年を迎え、electronica / productronica ブランドで開催
- 15,300 人以上がインド国内外から多数来場
 - 国際色豊かな見本市に
- 多くの商談が会期中に成立
- CEO 参加の会議プログラムは特に大盛況に

Facts & Data

| | |
|-----------------------------|---|
| 会 期 | 2009 年 9 月 8 日(火)～11 日(金) 午前 10 時～午後 6 時(最終日のみ午後 5 時まで) |
| 会 場 | Bangalore International Exhibition Center – BIEC (インド・バンガロール) |
| 主 催 | MMI - メッセ・ミュンヘン・インターナショナル |
| 規 模 | 16,000 m ² |
| 出 展 企 業 | 25 ヶ国より 825 社 (代理店出展含む) |
| 来 場 者 総 数 | 15,300 人 |
| 主 な 出 展 品 | <p><電子部品・アプリケーション> 半導体全般、パワー半導体部品、エンベデッドシステム、センサー、MEMS、リレー、スイッチ、配線技術、受動部品、モーター、駆動部、ケーブル、アセンブリ・サブシステム、マイクロ波技術、ディスプレイ、パワーサプライ</p> <p><製造機器・技術> 材料加工、部品製造、回路基材装置製造、ケーブル加工技術、はんだ付け技術、アセンブリ・モジュール・ハイブリッド用物流管理・装置製造、半製品・完成品用検査・測定技術、各種オペレーティング機器、製造サブシステム、関連サービス</p> |
| 出展日系企業 (現地法人・ 代理店出展含) | アイパルス(株)、(株)アサヒ化学研究所、(株)石井表記、英弘精機(株)、エプソントヨコム(株)、 エム・シー・エム(株)、(株)エルム・インターナショナル、(株)エンジニア、オカノ電機(株)、 OKI セミコンダクタ(株)、協立テストシステム(株)、(株)弘輝、(株)弘輝テック、 (株)小寺電子製作所、(株)コーシンインテックス、コーデンシ(株)、(株)サヤカ、 三洋エナジー(株)、三洋電機(株)、シシド静電気(株)、シャープ(株)、蛇の目シン工業(株)、 JUKI(株)、庄田鉄工(株)、(株)スズキ、(株)セキコーポレーション、双葉電子工業(株)、 ソニー(株)、ソニーマニュファクチュアリングシステムズ(株)、タカヤ(株)、(株)電波新聞社、 東芝セミコンダクター社、東洋リビング(株)、(株)トーテックジャパン、トミタ電機(株)、 トレックス・セミコンダクター(株)、(株)日経 BP、日本無線(株)、(株)ノイズ研究所、伯東(株)、 白光(株)、(株)日立製作所、富士機械製造(株)、富士高分子工業(株)、富士通(株)、 (株)フェローテック、(株)マルコム、三菱電機(株)、武蔵エンジニアリング(株)、(株)ムラキ、 (株)村田製作所、ヤマハ発動機(株)、ユニオンツール(株)、(株)ルネサステクノロジ 他 |
| 専 用 U R L | www.electronicindia.net (英語) |

今回 10 周年を迎えた electronica India / productronica India は、インド及びグローバルなエレクトロニクス市場に弾みをつけた。2009 年 9 月 8 日から 4 日間に渡り、インド・バンガロールの会場では最先端の電子部品、アセンブリー、材料、製造機器・技術が紹介された。今回の出展社数は、ドイツ、台湾、シンガポール、中国のパビリオンを含む、25 カ国から 825 社(代理店出展も含む)で、業界をリードする企業が最新技術や製品を紹介した。

その他のハイライトは下記の通り:

- ソニーマニュファクチャリングシステムズ(株)がインドでは初めて、最先端かつ環境に配慮した実装機及び印刷機 6 機種を紹介
- SLN Technologies 社が、知的車両追跡及びフリート管理システムヘイギリスの Fleetm8 社と合併で参入
- ヤマハ発動機(株)がインドでは初めて、インテリジェントフィーダー用の新しいモーターシリーズを発表
- (株)村田製作所(シンガポール)がインドでは初めて主力製品を紹介
- インドプリント基板協会(IPCA)が EMS 業界の認定コース、IPC600 及び IPC610 を開始
- The Asia Federation of Electronic Countries (AFEC)が「グローバル市場と動向」についての 2 日間のセミナーを開催 - 日本、インド、韓国、香港、台湾などから多数参加
- Agate & Agate Marketing Resources (I) Pvt. Ltd.社がはんだペーストの軟化剤や PCB ストレージシステムといった SMT ラインのインド国内製品を紹介
- SM Electronics Technologies Pvt. Ltd.社がワイヤレスモジュール及び LCD の新製品を発表

来場者数もさることながら、その質が高いことも当見本市の利点と言える。会期中に多く出展社が、回復しつつある経済の中新しいビジネスネットワークを構築し、商談を成立させた。メッセ・ミュンヘン・インターナショナル常務取締役クラウス・デトリッヒは、「来場者が多いこと、見本市が国際的な雰囲気であることから見ても、electronica India / productronica India は近い将来、エレクトロニクス業界で最も期待できる見本市の 1 つとなるだろう」と話している。

【出展社の声】

IPCA の Anil Kumar 氏

「メッセ・ミュンヘン・インターナショナル・インドと IPCA の戦略的なパートナーシップに非常に満足している。この質の高い協力関係が、業界全体の活性化につながり、今後の非常に楽しみだ」

ソニーマニュファクチャリングシステムズ(株)の須藤 博代表取締役社長

「インドは当社にとって大きな市場で、今回初めて製品を出展した。当社製品が、インドの顧客が求めているソリューションを提供できると確信している」

Murata Electronics Singapore (Pte) Ltd.社の Yeo LC 氏

「適切な来場プロモーションのおかげで、求めていた顧客とコンタクトを持つことができた。商品に対する反応も予想以上によく、出展して良かったと思っている」

NMTronics India Pvt. Ltd.の KM Swaminathan 氏

「世界的な経済危機により、見本市に投資すべきかどうか非常に悩んだが、会場での反応をみて安心した。すでに多くの引き合いもきている。」

見本市と併催して行われた会議プログラムには、多くの経営層が参加し、見本市及び会議プログラムの重要性が、CEO レベルにおいて高まっていることが明白となった。初日のパネルディスカッションでは、NOKIA 社、Moser Baer 社、SGS Teknics 社、Reliance Infocom 社、Elcoteq 社から講演者を迎え、非常に興味深い情報交換の場となった。またオートモーティブ関連の会議、「Trend and Future requirements in Automotive Electronics」には NXP Semiconductors 社、Wipro 社、KPIT Cummins 社、Robert Bosch 社、Tyco 社といった企業がプレゼンを行い、およそ 100 人が参加した。

次回は、2010年9月7日から10日に、Bangalore International Exhibition Centerにて開催する。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.electronicIndia.net まで。

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先:

メッセ・ミュンヘン・インターナショナル 日本代表部

〒102-0075 東京都千代田区三番町 2-4 三番町 KSビル 5F 在日ドイツ商工会議所内

Tel.: 03-5276-3508 Fax: 03-5276-3509 E-mail: info@messe-muenchen.jp

URL: www.messe-muenchen.jp (日本語) www.messe-muenchen.com (英語/ドイツ語)